

# 言語と文化を統合する韓国語教育方法

李 熙卿

## I. はじめに

近年韓国語教育における文化教育は、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングという4つの言語スキル以外に、第5の領域といえるほど、その重要性と関心度がかなり高まっている。つまり、現代の多文化社会 (Multicultural society) での言語教育というのは文化教育なしでは不可欠なものであるとも言えるだろう。とはいえ、果して文化教育を実際教育する韓国語教育現場では、どんな内容でどのように教えるかと言う具体的な方法論の問題に関して、その研究はまだ不十分な段階で、今後方法論的面で様々な角度で研究を進めていく必要があると思われる。

現在、日本の大学における文化教育は大きく二つに分けられる。一つは、言語教育の中で文化教育がともに行われる場合と、もう一つは、そうではない場合である。すなわち、後者の文化教育は、言語科目で韓国語・朝鮮語などを選択する学習者に言語教育を目的として教授するのではなく、主に、韓国文化などの科目名で韓国文化のみを教育することになる。本稿では韓国語・朝鮮語などの科目名で言語教育が行われ、その中で、文化教育をする際、言語と文化を統合する実際的な教授方法を提示することを目的とする。また、日本語母語話者対象の韓国語と韓国文化を統合的に教育することを目指し、初級学習者に対する方法論的面で具体的な実例をあげることで韓国語学習者のコミュニ

---

1) 国際文化フォーラムの『2005年度国際文化フォーラム通信』資料によると、4年制大学での韓国・朝鮮語の言語科目名は韓国語33.4%、朝鮮語27.8%、ハングル14.3%、コリア語7.8%、韓国・朝鮮語5.7%の順である。

ケーション能力を培うことを目的としている。

## Ⅱ. 文化教育についての先行研究

Brooks(1975)は、文学・芸術などは人間生活の最上の文化を成就する文化であり、それを大文字C(large culture)で表記している。また、生活方式に関する日常文化は小文字c(small culture)で表記し、文化を大きく二つに分けている。それから、文化に対する教育現場での定義としては、アメリカの「21世紀に備えた外国語学習基準(Standards for Foreign Language Learning: Preparing for the 21<sup>st</sup> Century)<sup>2)</sup>」が挙げられる。ここでは各学校が外国語と外国文化を必須として学習するための教科課程の目標を5C<sup>3)</sup>の成就としていて、外国語教育における文化学習は「行為文化(言語的行為と非言語的行為)」、そしてそこに内在している観念的文化(伝統的考え方・態度・信頼・価値観など)と、「有形・無形の文化的産物(絵・文学作品・話・踊り・教育制度など)」、そこに内在する観念的文化であると提示している。

### Ⅱ. 1. 言語教育での文化教育

言語教育において文化的な要素が重要視され始めたのは、1970年代以後、コミュニケーション能力(Communicative Competence)中心の教授法に関心が持たれ始め、コミュニケーション能力を高めるためには、目標言語の文化についての理解が必須項目になってからである。すなわち、学習者が目標言語だけで

2) アメリカ政府が21世紀を迎えるにあたって、小学校と中学・高校の外国語教育発展のためにアメリカ国内における4つの主要外国語教育協会に依頼し、開発した「21世紀に備えた外国語学習基準(Standards for Foreign Language Learning: Preparing for the 21<sup>st</sup> Century)」を意味する。

3) 5Cと言うのは次のことである。つまり、意思疎通 (Communication)、文化学習(Cultures)、他の科目との関係(Connections)、比較(Comparisons)、多文化社会への参加(Communities)。5Cに含まれた比較(Comparisons)は言語と文化の本質を察することを要求するものとして、目標言語文化と自国言語文化との比較を主な方法として設定している。

はなく、その目標言語の文化を理解しようとする努力なしでは、学習レベルを発展しにくく、言語学習の成功・失敗と結びつかれるからである。こういうことから、最近、言語教育と文化教育を別々に考えることはできず、言語教育を行いながら文化教育も必ず一緒に行わなければならないという考え方が強くなってきた。このような言語教育における文化教育の目標に対して、Chastain (1976)は相互文化的な意思疎通(Intercultural communication)、相互文化的な理解(Intercultural understanding)、学習者母語の文化認識(Realization of the basic aspects of the student's own culture)の三つを提示している。すなわち、言語教育の中で、文化教育が目指すべき方向は、学習者が目標言語に対するコミュニケーション能力を高めて行けるように目標言語の文化を理解し、また、学習者の母語文化に対して再認識することで、目標言語の母語話者と相互の文化交流をして行くことにある。

現在は、言語教育における文化教育は比較文化的(cross-cultural)接近<sup>4)</sup>、意思疎通民族地学的(ethnography of communication)接近<sup>5)</sup>、言語と文化の統合的(language-culture integrated)接近のような方向に向かって広がっている。

特に、外国語教育における言語と文化の統合教育に対する研究は、

---

4) Scollon(1999:183-184)では、交差文化的研究方法(Method in cross-cultural studies)と相互文化的研究方法(Method in intercultural studies)の定義について、この二つの用語は、よく互換性のあるように使われているが、二つを区別して定義付けるのが望ましいと述べている。つまり、交差文化的な研究(比較文化的な研究方法という用語が使われたりする。)は、お互いに孤立したグループに対する研究、すなわち、構造的違いや行動様式・慣習・伝統などのようなことに基づいた対照や比較研究を表すのに対して、相互文化的研究(文化間研究方法という用語が使われたりする。)は、お互いに違うグループの構成員が直接的な接触をするということに注目しなければならないし、大体、文化的グループの大きさが違うため、同質でない複雑さを持っていると記述している。このような点で、男女間の談話、世代間または専門家同士の談話のようにお互いに全く違う談話構造を持っている場合は、構成員のコミュニケーションにより、緊密に注目しなければならないと述べている。したがって、本稿では「Method in cross-cultural studies」に対して、比較文化的研究方法という用語を使うことにする。

5) 韓国語教育のなかで、意思疎通民族地学的(ethnography of communication)研究方法について捉えたものには、한상미(ハンサンミ1999)があり、한상미(ハンサンミ1999)では、韓国語教育で応用することのできる方法として、参加観察・通察・インタビューなどを提示し、初級・中級・上級の実際の授業モデルも提示している。

Lafayette(1978)<sup>6)</sup>がある。Lafayette(1978)は言語と文化の統合教育の方法論的な問題について、次のように提案している。

- (1) 語彙・文法と係わる文化トピックを選定しなければならない。
- (2) 文化を教えるために様々な工夫(スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングとの統合)を使わなければならない、文化教育を一方的な講義方式にしない。
- (3) できるかぎり、目標言語を文化的トピックで取り扱う。
- (4) 語彙を教育する時、文化的情報を使って単語の意味を教える。
- (5) 文法練習とドリルを含んだ言語練習活動のために文化的文脈を利用する。
- (6) 文化教育のために討論やロールプレイなどのような小グループ活動を活用する。

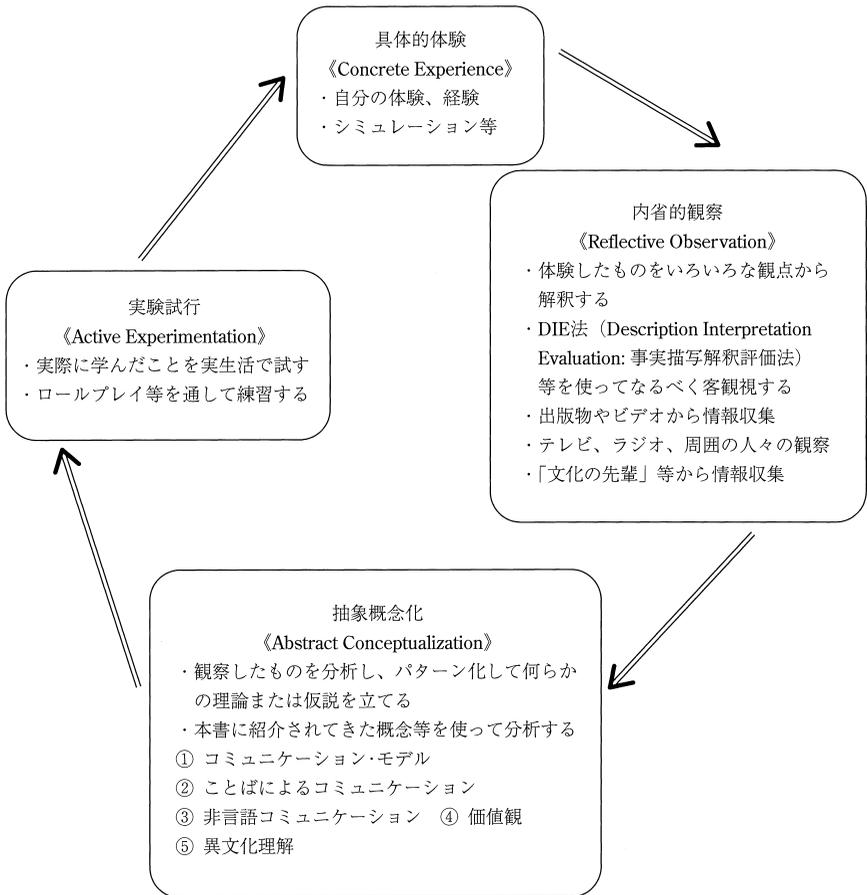
目標言語の文化に対応して行くためには、それによる教授学習法が必要であるということに対して、八代(1999:265)<sup>7)</sup>では、《図1》のようにまとめている。これを参考にして韓国語教育における文化教育にも活用することができると思われる。また、この教授学習モデルも文化教育が説明だけで成り立つものではなく、学習者が理解と経験を通じて内在化しなければならないということを語っているものであると言える。

---

6) 이미혜(イミヘ2004: 148-149)を参考にした。

7) Kolb(1976)で提示したものを、八代(1999)がまとめたものである。

《図1》 コルブの学習サイクルを通じて実体験から学ぶ



## II. 2. 韓国語教育における文化教育

前項で記述したように、言語教育と文化教育が密接な関係で成り立たなければならないということに対して、韓国語教育における文化教育も言語と文化がそれぞれ独立的に行われるのではなく、有機的で密接な関係を維持して同時に成り立たなければならないという見解には大体一致している。김정숙(キム

ジョンスク1997)では、言語の使用は、文化的範疇と文脈からはずれてはならないし、言語は文化を伝達したり、新たに創出する媒介であると同時に文化の特性を最もよく現わすことのできる要素の中の一つであるという点から、言語教育と文化教育を別のものとみなすことはできないと述べている。また、성기철(ソンギチョル2001)では、韓国語教育で要求される文化教育の上位目標を韓国文化の理解を通じて、効果的な韓国語コミュニケーション能力を身につけることとしている。さらに성기철(ソンギチョル2001)では、このような目標を基本として、初級・中級・上級の三段階に分け、各級ごとの細部目標を設定している。その中で初級の目標としては、第一に、韓国語に興味と自信を持って韓国語でコミュニケーションをすることができる基本能力を培うこと、第二は、日常生活に関する言葉と文の意味を理解し、表現すること、第三に、表情やジェスチャーのような非言語的コミュニケーションの違いを理解すること、第四は、文化間の違いを理解して認めること、第五には、韓国文化に対する先入観や固定観念を持たず韓国文化を客観的で体系的に理解しようとする態度を作っていくことであると提示している。

次に、韓国語教育における文化教育内容に対する最近の研究として、강승희(カンスンヘ2001、2003)、김정숙(キムジョンスク1997)、민현식(ミンヒョンシク2003)、박영순(パクヨンスン2002)、조항록(チョウハンロク1998、2000、2001、2002)、이혜영(イヘヨン2000)などがあげられる。이혜영(イヘヨン2000)では、文化教育の内容を選択(selecting)と等級化(grading)する作業はシラバス計画と一緒に考えなければならない作業であるが、現在韓国語教育では、文化教育内容に対する選択と等級化という点において言語教育内容のシラバス計画に比べてあまり考えられていない段階であると述べている。したがって、学習者の学習段階と学習者の多様な背景によるニーズ分析を行ってから、文化項目を選択し、等級化しなければならないということである。実際、教育現場で外国人を教育する韓国語教師の立場では、文化教育内容に対する初級・中級・上級学習者による文化教育内容を選択して等級化することは教師個人の

問題で解決することは難しい作業なので、多くの機関の研究者が様々な面から、多角的な研究を行っていかねばならないであろう。

文化教育の内容について、김정숙(キムジョンスク1997)では、韓国語教育での文化教育を範疇化し、次の五つに分けている。

- (1) あいさつ、買い物、感謝表現、謝罪表現などの日常生活様式と係わる文化要素教育
- (2) 諺、慣用表現などの文化的特質を持っている言語的要素教育
- (3) 談話範疇と状況に適切な言語形式を取り、表現することができる語法、敬語法教育
- (4) 韓国の政治、経済、歴史、社会、文化全般を理解するために必要な主要歴史的事件及び機関、地理学的記念物などの政治経済的要素教育
- (5) 韓国を代表する文学と芸術についての教育

次に、이혜영(イヘヨン2000)では、文化教育の内容を次のように提示している。

言語	言語表現に具現された思考過程と概念
	社会言語学的要素
生活様式	構成員の日常生活様式
価値観	集団の価値観及び世界観、宗教
地理	地理関連情報
歴史	歴史関連情報
制度	各種の社会制度
成就文化	各種の成就文化と結果物

韓国語教育における文化教育方法に対する具体的な方法論研究としては、조항록(チョウハンロク2000)がある。조항록(チョウハンロク2000)では、特に、

初級学習者を対象にした方法論<sup>8)</sup>を詳しく提示している。また、성기철(ソンギチョル2001)では、文化教育の問題点<sup>9)</sup>と今後目指して行かなければならない方向に対して記述しているが、その中の一つは、ほとんどの教材で握手やあいさつをしながら頭を下げること、煙草を吸う時の礼節などの非言語的意思疎通手段に対しては、あまり触れていないということを指摘し、買い物という文化項目についても、ただ、物を売って買うのではなく、在来市場では価格表示がなく、値打ちができることや領収証がないことなど、むしろもっと韓国的な文化で教授すべきであると述べている。

そして、今後の文化教育方向については、민현식(ミンヒョンシク2003)で次のように提示している。

- (1) 文化型教育課程のシラバスが開発されなければならない。すなわち、文化項目を決めて学習者のレベルを考慮した文化教育課程を作らなければならない。
- (2) 韓国語教師教育過程や学習者教育課程で文化中心教育課程教育が必要である。
- (3) 韓国語文化教育が成功するためには、文化の内容研究と文化教授学習法に対する議論を活発に行わなければならない。

(ア) 文化内容研究： 韓国語教育に有意義な教育内容を掘り出して再構成する。

(イ) 文化内容教材化方法研究： 開発した文化内容を教材にいかに関

8) 第一は説明、二つ目は実物、写真、絵の提示と映像物の感想、三つ目に住所と郵便番号書き取り、散らしなどを読んで商品選択をするような実際の活動、四つ目に食堂で食べ物を注文すること、ホテルなどでのロールプレイ、五つ目には自分の国の文化と比べて話すこと、六つ目には、在来市場での買い物、景福宮訪問などの現場見学、七つ目は、観察など意思疎通民族地学的接近法などの活用を提示している。

9) 文化項目の選定基準、学習者のレベルに合わない文化項目の提示、文化教育の目標が明確でないことなどを指摘している。

するべきであるかを定める。

- ・会話の本文中に反映して教授する。
- ・「culture tips」のように別の項目で設定すること：英語などで翻訳文をいれない。
- ・問題解決式で設定すること：梨花女子大学教材のような韓国語の文化の知識を活用した問題解決式設定である。
- ・課題方式で提示すること：文化学習課題を提示し、学生が解決するようにさせる。

(ウ) 文化教授学習方法研究：文化内容の教授学習活動を様々な形で開発する研究が必要である。

### Ⅲ. 韓国語教育と文化教育を統合する初級段階教授方法

本章では、韓国語という言語教育の中で、文化教育をする際、言語と文化を統合する実際的な教授案を提示し、日本語母語話者を対象に韓国語と韓国文化を統合的に教育することを目標とする。このような、初級学習者に対する方法的な面での具体的な事例をあげることで韓国語学習者のコミュニケーション能力を培うことができると思う。

#### Ⅲ. 1. 教授内容と授業展開

ここでは、本人が実際教授した教授内容と授業展開を提示する。この教授案は、松山大学の「ハングルアクティブ」<sup>10)</sup>という科目の授業で教授したものとして、一つ目は、「招待状」を韓国語で書いてみることであるが、提示した《副教材資料 1》は梨花女子大学の『Pathfinder in Korean I p.14』を抜粋した

---

10) 松山大学の韓国・朝鮮語の科目名は「ハングル」であり、1年次は「ハングルⅠ」・「ハングルⅡ」を前期・後期2コマずつ学習し、2年次からは通年4単位の「ハングルアクティブ」「ハングルプロフィシェンシ」などが選ばれる。

ものである。2つ目は、「年賀状」を韓国語で書いて出すことであり、実際、学習者が教師に年賀状を書いて韓国に送る課題を「ハングルアクティブ」の授業で2003年と2004年2回行っている。3つ目は「買い物」する時、韓国ではレジ袋を買わなければならない<sup>11)</sup>という日常生活についての文化情報とともに買い物する時の表現などを提示する教授案である。「年賀状」と「買い物」に提示している《副教材資料 2・3・4・5》は本人が作成したものである。また、4つ目の「済州道」は、梨花女子大学『Pathfinder in Korean II p.33』リーディング本文を抜粋したものである。

## 1. 「招待状」についての教授内容と授業展開

### (1) 教授内容

教授段階	初級
文化項目	招待状を書くこと、送ること
言語機能	手紙形式で招待すること
文化教育目標	お客さんを招待するという日常生活文化を手紙の形式である招待状を実際書いてみることで、実生活で活用することができるようにすることを目標とする。

### (2) 授業展開

導入段階 (Warm up)	何通の招待状と封筒を学習者に見せ、まず、何であるかを質問して、招待状を書く場合には、どんな内容を書くかなどを考えさせながら、学習者を動機付けする。
-------------------	---

11) 実際韓国で、はじめて買い物をするとき、「봉투 드릴까요?(レジ袋要りますか。)」と訊かれて戸惑った経験があるという日本語母語学習者が多い。

<p>提示段階 (Presentation)</p>	<p>韓国で招待状を書く形式と封筒の書き方を提示する。学習者に先に質問をして誘導しながら、韓国での招待状を書く時のサンプルを提示する。招待状に書かれた内容に、招待する表現の中での「○○○을 / 를 ○○에 초대하고 싶습니다(○○○を○○に招待したいです。)」という文型練習と、日付、時間、場所などを練習し、また、招待状を書く時は、受けとる人の名前の後に「○○○께」と書くことと、送る人の名前の後には「○○○올림」と書くこと、封筒を書く時は、受けとる人の名前の後に、「○○○귀하」と書き、送る人の名前の後には、「○○○ 올림」と書く形式、郵便番号の書き方などを提示する。</p>
<p>練習段階 (Practice)</p>	<p>実際書く練習をするため、招待状の紙と封筒を配り、教室で練習させる。</p>
<p>活用段階 (Use)</p>	<p>課題として教師に送る招待状を書かせ、郵便局へ行って実際送るようにする。</p>
<p>まとめ段階 (Follow up)</p>	<p>実際に教師が受けとった招待状を確認して、学習者全体的に充分でない部分を修正してまとめる。</p>

### 《副教材資料 1》招待状の書き方練習

3. 정중하게 초대해야 할 사람에게는 초대장을 보냅니다.

#### 초대장 쓰기

이수진 씨께  
안녕하십니까?

\_\_\_\_\_

저희 집에 초대하고 싶습니다.

장소: 서울특별시 서대문구 대현동 어화아파트 1동 203호  
날짜: 10월 18일 금요일  
시간: 오후 6시

10월 10일  
마이클 윌리엄 올림

## 봉투 쓰기

<p>서울특별시 서대문구 대현동 이화아파트 1동 203호</p> <p>마이클 윌리엄 윌리엄</p> <p>1 2 0 - 7 5 0</p>	<p>서울특별시 송파구 잠실동 126 경미아파트 5동 307호</p> <p>이 수 진 권하</p> <p>1 3 8 - 7 9 6</p>
---	---

<梨花女子大学 『Pathfinder in Korean I p.14』 抜粋>

## 2. 「年賀状」についての教授内容と授業展開

## (1) 教授内容

教授段階	初級
文化項目	年賀状を出すこと
言語機能	手紙形式で新年挨拶をすること
文化教育目標	韓国の友達や知り合いに、手紙形式である新年挨拶の年賀状を書き、封筒も書くことができ、実生活で活用することができるようにすることを目標とする。

(2) 授業展開

導入段階 (Warm up)	実際に年賀状を見せながら、学習者に何であるか質問した後、年賀状はいつ書くものなのか、どんな内容を書くかなどを考えさせる。
提示段階 (Presentation)	年賀状と封筒を書く形式と表現を提示する。
練習段階 (Practice)	実際に年賀状を紙に書いて、封筒を書いて見るようにする。
活用段階 (Use)	実際に学習者が教師に年賀状を送るように課題を与える。
まとめ段階 (Follow up)	全体的に充分でない部分を訂正してまとめる。

《副教材資料 2》年賀状の書き方練習

새해 복 많이 받으세요 .

《副教材資料 3》封筒の書き方練習

---

---



---

## 3. 「買い物」についての教授内容と授業展開

## (1) 教授内容

教授段階	初級
文化項目	買い物
言語機能	買い物すること、訊いて答えること
文化教育目標	韓国の日常生活でよく経験する「買い物」という文化項目を通じて、お店で品物を買う時は、レジ袋が必要ならば買わなければならないという情報を得て、実生活で活用できることを目標とする。

## (2) 授業展開

導入段階 (Warm up)	コンビニエンスストアで撮った動画を導入段階で学習者に見せ、「買い物」という学習に動機付けする。動画資料を見ながら、どこで話しているか、登場する人物は誰なのかなどについて話しあう。
提示段階 (Presentation)	コンビニエンスストアで「買い物」をする時、店員とお客さんが使う表現を考えさせる。その時、グループ活動で学習者自分が推測し、表現を話し合う。教師がすべてを提示しないで、なるべく学習者の発話を増やすために、学習者の母語である日本語では同じ状況で、どんな表現を使うかを考えさせ、各グループで話しあった後、発表させる。このようにすることで、学習者が韓国人の「買い物」という文化項目と、その機能を遂行するのにあって、必要な表現を母語と目標言語との比較を通じて学習することができる。次に動画を見ながら、実際対話を聞いて見る。対話を聞きながら学習者から店員とお客さんの対話を誘導する。

練習段階 (Practice)	「買い物」という状況に、必要な表現、すなわち、「얼마예요?(いくらですか?)」、「있습니까?(ありますか?)」、「봉투 드릴까요?(レジ袋いりますか?)」、数字の読み方などの必須表現を練習する。
活用段階 (Use)	店員と客になり、ロールプレイを演じて「買い物」という課題を果たす。副教材資料を利用して自分が買った物を店員に見せながら、練習した後、発表をして見る。
まとめ段階 (Follow up)	全体的に充分でない部分を訂正して授業をまとめる。

《副教材資料 4》 動画を見た後の質問

<p>1. 두 사람은 어디에서 이야기하고 있습니까?                  (1) 서점      (2) 식당      (3) 편의점      (4) 영화</p> <p>2. 점원은 무슨 말을 할까요? 써 보십시오.</p> <p>3. 손님은 무슨 말을 할까요? 써 보십시오.</p>
---

《副教材資料 5》 日本と韓国のお店でのお客さんと店員さんの会話比較

1. 한국과 일본의 슈퍼나 편의점에서 점원과 손님은 무슨 말을 합니까?  
 비교해 보십시오.

	일본	한국
점원		
손님		

2. ‘물건사기’ 에서의 한국과 일본의 차이점은 무엇입니까? 이야기해 보십시오.

韓国での「買い物」と日本での「買い物」という文化項目を比べて、学習者たちの意見をまとめた結果、言語的な側面で、韓国の場合は日本に比べて店員がお客さんと交わす発話量が全体的に少ないということが挙げられた。日本では、店員のあいさつが普通「いらっしゃいませ、おはようございます/こんにちは/こんばんは。」と言うが、それをそのまま韓国語で訳すると、「어서 오세요, 안녕하세요.」や手順を変えて「안녕하세요, 어서 오세요.」になるが、韓国の場合は、このようにお客に「안녕하세요.」とあいさつをする場合は珍しいということと、日本ではお客さんが買った物の一つ一つの価格を言うのに対して、韓国では全体に一度価格だけ言うということが違うと言った。非言語的な面に関しては、日本の店員は大体お客さんに形式的な笑顔が多い一方、韓国の店員は、かなり硬い表情であるということなどをあげている。

## 4. 「済州道」についての教授内容と授業展開

## (1) 教授内容

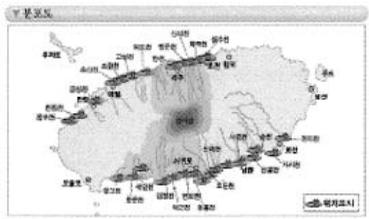
教授段階	中級低 (Low Intermediate)
文化項目	済州道
言語機能	スキミング (Skimming : 内容を大まかに読むこと) 機能強化
文化教育目標	韓国が一番大きい島である済州道についての文化的・地理的理解をすることを目標とする。

## (2) 授業展開

導入段階 (Warm up)	学習者に済州道に対する多くの写真を提示し、どこであるか、行った事があるかなどの質問をすることで、これから学習することになることについての内的動機付けをする。	リーディング 前段階
提示段階 (Presentation)	済州道はどこにあるか、何で有名なのかなどについて提示する。	リーディング 前段階
練習段階 (Practice)	済州道に対するリーディング資料を配って、スキミング (skimming : 内容を大まかに読むこと) をして見るようにさせる。そして、絵と関係のある段落を線でつないで見るようにすることで内容理解をさせる。	リーディング 本段階
活用段階 (Use)	不十分な文法構造や語彙などを検討した後、済州道と似ている日本で有名な観光地についての作文をして見るようにする。	リーディング 後段階
まとめ段階 (Follow up)	全体的に不十分なところを修正してまとめる。	リーディング 後段階

《副教材資料 6》

絵と関係のある段落を結んでみてください。

<p>서울에서 비행기를 타고 약 한 시간쯤 가면 푸르른 바다 위로 길고 둥근 섬이 하나 보입니다. 그 아름다운 섬이 제주도입니다. 제주도는 한국의 남쪽에 있는 제일 큰 섬인데 섬 중앙에는 한라산이 있습니다.</p>	<p>• •</p>	
<p>그리고 한라산 꼭대기에는 백록담이 있습니다. 백록담은 화산이 폭발하여 만들어진 화산구입니다.</p>	<p>• •</p>	
<p>제주도는 경치가 아름답고 따뜻합니다. 특히 봄에 피는 노란색 유채꽃은 매우 아름답습니다. 그래서 이 아름다운 섬 제주도로 신혼여행을 많이 갑니다.</p>	<p>• •</p>	
<p>제주도는 돌하루방으로도 유명합니다. 돌하루방은 돌로 만든 할아버지 상인데 제주도 곳곳에서 볼 수 있습니다. 제주도 사람들은 이 돌하루방이 제주도를 지켜 준다고 믿고 있습니다.</p>	<p>• •</p>	
<p>제주도를 ‘삼다도(三多島)’ 또는 ‘삼무도(三無島)’ 라고 합니다. ‘바람, 돌, 여자’ 이 세 가지가 많아서 ‘삼다도’ 라고 합니다. 그리고 제주도에 는 도둑이 없고 거지가 없고 집에 대문이 없다고 해서 ‘삼무도’ 라고도 합니다.</p>	<p>• •</p>	

< 梨花女子大学 『Pathfinder in Korean II p.33』 リーディング本文抜粋 >

#### Ⅳ. おわりに

文化を紹介するにあつて、学習者の学習レベルに合わせた文化項目を提示することが望ましいし、各課で提示しようとする文化項目がその課のトピックや表現、文法項目などと関連性のあるように教授することが望ましいであろう。トピックと文化項目が全然関連性のないものを提示するということは学習者に簡単に情報を提供するだけにとどまり、韓国文化に対する言語との統合学習効果面では、トピックと関連性のある場合よりは学習者の言語的な意思疎通能力を培うという面で効果が落ちると思われる。参考に韓国語世界化財団で報告した報告書「韓国語中級1教材」には各課に学習者が直接自分の学習程度を評価する欄(Self-Assessment)を設け、各課の文法項目と語彙、表現などをどの程度理解しているかについて「よくできる、普通、不足」という3つの段階で分類して、評価ができるようにしてある。このように文化教育も認知的な側面で説明する情報提供段階に止まらず、少なくとも学習者が教材に提示された文化項目に対して簡単に確認することができる学習活動資料を提示するなど自分の評価ができるようにすることが言語と文化の統合という面での一つの望ましい教授方法であると思われる。

#### 参考文献

- 강승혜. 2003. 한국문화 프로그램 개발을 위한 한국어 학습자 요구분석. 한국어교육 제14권 3호. 국제한국어교육학회.
- 강승혜. 조항록. 2001. 초급 단계 한국어 학습자를 위한 문화 교수요목의 개발(1). 한국어교육 제12권 2호. 국제한국어교육학회.
- 김정숙. 1997. 한국어 숙달도 배양을 위한 한국 문화 교육 방안. 교육 한글 제10호. 한글학회.
- 남기심, 이상억, 홍재성 외 공저. 1999. 외국인을 위한 한국어 교육의 방법과 실제. 한 국방송대학교 출판부.

- 라민혜, 우인혜. 2001. 중급 교재 내의 문화 교육 방안. 국제한국어교육학회 제11차 국제학술회의, 국제한국어교육학회.
- 민현식. 2003. 국어교육과 한국어 교육에서의 문화교육. 한국외국어교육학회 2003년 겨울학술대회발표회논문집. 한국외국어교육학회.
- \_\_\_\_\_. 2003. 국어교육과 한국어 교육에서의 문화교육. 외국어교육 제10권 2호. 한국외국어교육학회.
- 박갑수. 1998. 외국어로서의 한국어 교육과 문화적 배경. 선청어문 제26호. 서울대학교 사범대학 국어교육과.
- 박노자. 2000. 한국 문화 교육의 현황과 문제점. 한국어교육 제11권 2호. 국제한국어교육학회.
- 박영순. 1989. 제2언어 교육으로서의 문화 교육. 이중언어학 제5호. 이중언어학회.
- \_\_\_\_\_. 2002. 한국어 교육을 위한 한국문화론. 한국문화사.
- 배현숙. 2002. 한국어 교육에서 문화교육 현황 및 문제점. 이중언어학 제21호. 이중언어학회.
- 성기철. 2001. 한국어 교육과 문화 교육. 한국어교육 제12권 2호. 국제한국어교육학회.
- 심민아. 1998. 외국어로서의 한국어 교육에 있어서 문화 교육 방안. 이화여자대학교 교육대학원.
- 이미혜. 2004. 한국어와 한국 문화의 통합 교육. 한국언어문화학 제1권 1호. 국제한국언어문화학회.
- 이석주. 2002. 한국어 문화의 내용별 단계별 목록 작성 시고. 이중언어학 제21호. 이중언어학회.
- 이해영. 2000. 프로젝트 활동을 활용한 한국 문화 학습. 외국어교육 제7권 2호. 한국외국어교육학회.
- 장연희. 1989. 외국어 교육에 있어서의 문화 교육. 이화여자대학교 교육대학원.
- 장윤정. 2002. 한국어 교재에서의 문화 교육 분석. 연세대학교 교육대학원.
- 조창환. 1996. 한국어교육과 연계된 한국문화 소개 방안. 한국어교육 제7권. 국제한

국어교육학회.

조항록. 1998. 한국어 고급 과정 학습자를 위한 한국 문화 교육 방안. 한국어교육 제9권 2호. 국제한국어교육학회.

\_\_\_\_\_. 2000. 초급 단계에서의 한국어 교육과 문화 교육. 한국어교육 제11권 2호. 국제한국어교육학회.

\_\_\_\_\_. 2002. 한국어 문화 교육론의 주요 쟁점과 과제. 21세기 한국어교육학의 현황과 과제. 한국문화사.

한국어세계화추진위원회. 1999. 범용한국어 교육 교재(초급)의 개발 사업 보고서. 문화관광부 한국어세계화추진위원회.

한국어 세계화 기반 구축을 위한 한국어 해외 보급 사업 기초 교육 자료 분과 2. 2002. “한국어” 중급 1 교재 개발 최종보고서. 문화관광부 한국어세계화재단.

한국어 세계화 기반 구축을 위한 한국어 해외 보급 사업 교육. 연수 분과 3. 2002. 한국어 교육 총서 2 『한국어 교수법』 개발 최종 보고서. 문화관광부 한국어세계화재단.

한상미. 1999. 한국어 교육에서 언어와 문화의 통합적인 교육 방안. 한국어교육 제10권 2호. 국제한국어교육학회.

현윤희. 2001. 과제 수행 중심의 말하기 지도 방안. 한국어교육. 제12권 2호. 국제한국어교육학회.

Brown, H. Douglas. 2001. Teaching by Principles. Addison Wesley Longman, Inc.

Damen, Louise. 1987. Culture Learning: The Fifth Dimension in the Language Classroom. Addison Wesley Publishing Company, Inc.

Scollon, Ron. 1999. Cultural codes for calls. in Hinkel, Eli ed. Culture in Second Language Teaching and Learning. Cambridge: Cambridge University Press.

국제문화포럼. 2003. 「日本の大学での韓国・朝鮮語教育中間報告」.

국제문화포럼. 2005. 「特集韓国朝鮮語教育をどう位置づけるか」. 『국제문화

フォーラム通信No. 65】.

角田三枝. 2001. 『日本語クラスの異文化理解』. くろしお出版.

小池生夫. 2003. 『応用言語学事典』. 研究社.

佐治圭三・真田信治. 2004. 『日本語教師養成シリーズ6 異文化理解と情報』. 東京法令出版.

徳井厚子. 2002. 『多文化共生のコミュニケーション』. アルク.

飛田良文. 2001. 『異文化接触論』. おうふう.

細川英雄. 2002. 『日本語教育は何をめざすか—言語文化活動の理論と実践—』. 明石書店.

八代京子 外. 1999. 『異文化トレーニング』. 三修社.

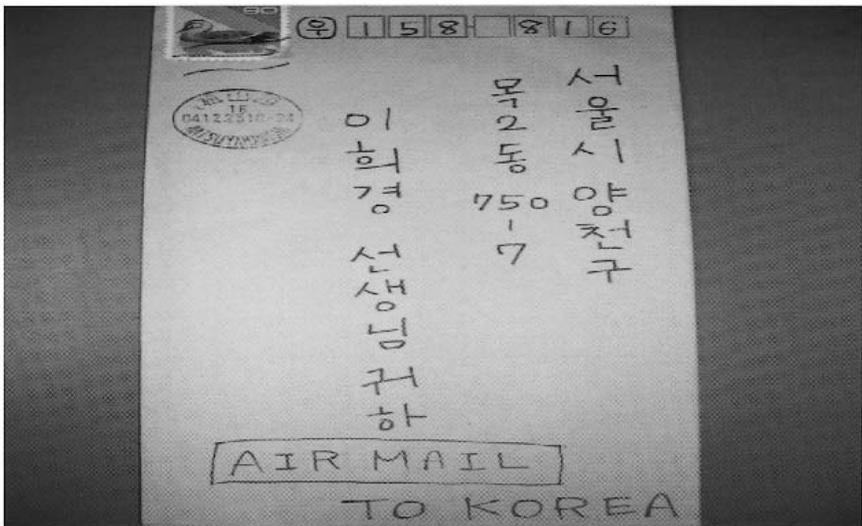
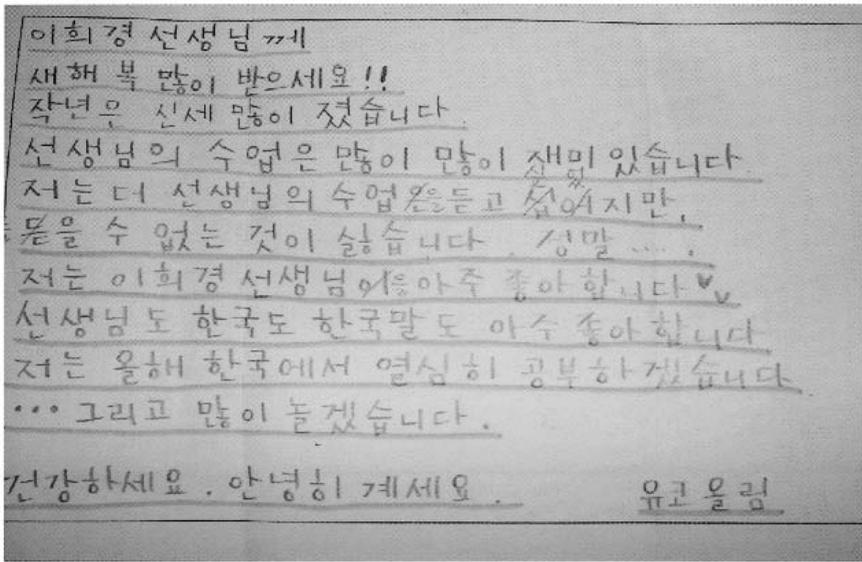
柳原初樹. 2003. 「異文化理解と外国語・外国文化教育」. 『言語と文化』. 甲南大学国際言語文化センター.

<韓国語教育教科書>

梨花女子大学言語教育院. 1998. 『Pathfinder in Korean I』. 梨花女子大学出版部.

梨花女子大学言語教育院. 1999. 『Pathfinder in Korean II』. 梨花女子大学出版部.

< 学生課題資料 - 年賀状 >



付記：本稿は平成16年度松山大学特別研究助成による研究成果である。